



大森六中だより

令和7年 11月号
大田区立大森第六中学校
統括校長 菅野 哲郎
TEL 3726-7155

よりよく生きる。

文化祭を終えて

11月1日に文化祭を開催しました。プログラムはPTAコーラスから始まり、全校生徒による「六中平和の歌」の合唱、学年合唱、クラス合唱、大田区立中学生海外派遣報告、演劇部の劇、そして吹奏楽部の演奏がトリを務めました。

いずれの発表も、十分な準備と練習の成果が表れ、聴く人、見る人に感動を与えてくれました。特に、学年合唱とクラス合唱は、学年が上がるにつれて迫力が増し、表現が優れ、本校が生徒の成長に寄与していると手前味噌ですが感じました。

定期考查の意味

文化祭が終わると、生徒には2学期末考査が迫ってきます。この原稿を書いているのは、その1日目です。朝の登校風景は、気負つていつもより早く登校する生徒もいれば、いつもと変わらず予鈴前後で登校する生徒もあります。

定期考査は学習した大切な内容が定着しているか確認する機会です。もちろん学期末に示される通知表の評定の重要な資料となります。重要なのは身についていない知識や技能を確認すること。そして、それらを身につけるよう努力することです。そして、結果を他人と比較することは意味がありません。過去の自分と比較することに意味があります。よりよく生きるために、知識・技能、見方・考え方を広げてください。

思春期女子のメンタルヘルス悪化と拡大する性差

右図は日本の厚生労働省統計をもとに作成され、公益財団法人東京都医学総合



六中だよりはHPからも
ご覧いただけます。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

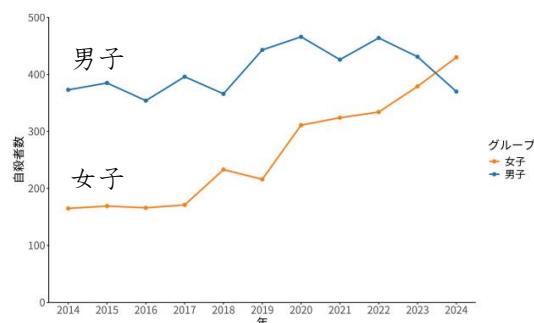


図1.日本における20歳未満の自殺者数の推移

研究所のサイトに掲載された上記の論文に使用されている日本における20歳未満の自殺者数の推移を示すグラフです。

ご覧の通り、10年前の20歳未満の自殺者数男子373人・女子165人から女子が右肩上がりで増加し、2024年に女子が男子を初めて上回ったことを示しています。国立精神・神経医療研究センターや東京都医学総合研究所、東京大学などの研究チームは、その背景に「女子が昔ながらのジェンダー規範に沿って期待されるだけでなく、学業や社会で成功することも同時に求められるプレッシャーを受けていることがある」という。このほか、SNSなどインターネット利用の悪影響、対面だけでなくネットを介した性的搾取、過剰なやせ願望、思春期の早期化などの様々な要因が複合的に関与している可能性がある」と指摘しています。

学校も家庭も過度なプレッシャーを与えないことが肝要です。また、生き辛さを感じている生徒は、必ず相談できる大人にその心情を打ち明けて欲しいと切に願っています。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

地域とのつながりを大切に

10月19日（日）、大岡山駅前商店街自治会の防災訓練に参加しました。スタンドパイプを設置しての放水訓練では、防火栓のフタの重さ、スタンドパイプが見た目よりもとても軽いことなど、体験を通して学びました。消火活動には人手が必要なことや、高齢の方だけでは大変な作業もあり、若い力が街を救うことに気づくことができました。



11月10日（月）からは後期のシビック・アクションが始まりました。農援隊や地域の防災訓練など、様々な活動を通して発見したことが、シビック・アクションでの活動にもつながる事に期待しています。シビック・アクションでは、今年度も洗足池図書館への展示を計画中です。平和・科学・環境・食べものそれぞれのテーマで生徒たちが発見した地域・社会の課題について、本の紹介とともにPOP展示を行います。展示期間は追ってお知らせいたしますので、ぜひ足を運んでください。

今月の行事報告

移動教室

10月22日（水）から24日（金）にかけて1年生の菅平移動教室を実施しました。天気にも恵まれ、充実した活動を行うことができました。初日は、班ごとに軽井沢の街を散策。時間を意識しながら行動する中で、互いに声をかけ合い、助け合う姿が見られました。2日目は、ダボスの丘でのウォーキングと星空観察。見上げた満天の星空や、雄大な自然の景色に、生徒たちは思わず歓声を上げていました。そして3日目には、班で協力して飯盒炊爨に挑戦し、火おこしや調理に苦戦しながらも、完成したカレーを笑顔で分け合う姿はとても印象的でした。



文化祭

11月1日（土）に文化祭を開催しました。今年度のスローガンは「心合楽のマーチ」。合唱の最初に「平和の歌」を全校生徒で合唱を行い、文化祭を盛り上げていきました。合唱発表会では各クラスが当日までクラスで工夫しながら努力を重ね、心を込めて表現し、聴く人の心を打つ合唱となりました。



舞台発表会では、英語でのスピーチによる海外派遣生徒発表、脚本を生徒自身で作り上げた演劇部の公演、応援団のパフォーマンスや手拍子で会場も一体となった吹奏楽部の演奏と、大盛り上がりを見せました。準備から当日まで活躍した文化祭実行委員や中継を行った放送委員、看板制作を行った美術部など、多くの生徒が力を合わせ、充実した文化祭となりました。

